

# 九州医療センター 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

### 【九州医療センターの基本情報】

医療機関名：独立行政法人国立病院機構九州医療センター

開設主体：独立行政法人国立病院機構

所在地：福岡県福岡市中央区地行浜 1 丁目 8 番 1 号

許可病床数：702床

（病床の種別）一般650床、精神50床、感染症2床

（病床機能別）高度急性期652床

稼働病床数：702床

（病床の種別）一般650床、精神50床、感染症2床

（病床機能別）高度急性期652床

職員数：

医 師 296名（常勤234名、非常勤医師2名、臨床研修医60名）

看護職員 759名（常勤744名、非常勤15名）

専門職 161名（薬剤師34名、診療放射線技師33名、臨床検査技師33名、  
栄養士7名、理学・作業療法士13名、臨床工学技士12名、  
診療情報管理士6名、MSW6名、技能職9名、その他8名）

事務職員 129名（常勤26名、非常勤103名）

主たる機能：

- 診 療
- ①循環器、成育、がん、免疫異常、内分泌代謝、血液・造血器、肝、腎、精神、感覚器の政策医療を専門分野とする高度総合診療
  - ②循環器、脳血管、腎高血圧等の分野を主たる対象とする高度救急医療
  - ③高度周産期医療
  - ④21世紀の医療モデルとしての高度先進医療
  - ⑤地域医療支援病院
  - ⑥地域がん診療連携拠点病院

研 究 機能付けされた政策医療専門分野および高度総合医療施設にふさわしい組織横断的な臨床研究

研 修 臨床研修指定病院、各種医療従事者の卒後研修及び生涯研修

## 診療部門

### 診療部門サブセンター：

脳血管センター、循環器センター、呼吸器センター、周産期センター（産科系担当、小児科系担当）、消化器センター（消化管担当、肝胆膵担当）、リウマチ・膠原病センター、脊椎・運動器センター、乳腺センター、前立腺癌総合治療センター、糖尿病・代謝内分泌センター、合併精神センター、口腔腫瘍・口腔ケアセンター、AIDS／HIV総合治療センター、総合診療センター、血液センター、レディースセンター

### （構成診療科：42診療科）

内科（総合診療科・代謝内分泌内科・血液内科・膠原病内科・免疫感染症内科・腎臓内科・高血圧内科・腫瘍内科）、精神科、神経内科（脳血管神経内科・脳血管内治療科）、呼吸器科、消化器科、循環器科、リウマチ科、小児科、外科（消化管・肝胆膵・乳腺）、整形外科、形成外科、呼吸器外科、脳神経外科、心臓血管外科（心臓外科・血管外科）、小児外科、皮膚科、アレルギー科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、臨床検査部、病理診断科

### マネジメント部門サブセンター：

メディカルコーディネートセンター（医療マネジメント部、地域医療連携部、入院支援部）、がん診療統括部、臓器提供対策室、医療安全管理部。感染制御部、医療情報管理部

### 診療中央部門：

広域災害・救命救急センター、放射線診療センター（技術部門、診断部門、治療部門）、手術・中央材料部、麻酔部、光学診療部、超音波・生理検査センター、外来総合治療センター、血液浄化部、輸血管理部、遺伝子検査センター、病理部、臨床検査部、薬剤部、栄養管理部、リハビリテーション部、MEセンター、心理療法士室

### 特 色：

地域医療支援病院、広域災害九州ブロック拠点病院（福岡県基幹災害拠点病院）、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、救急告示病院、第二種感染症指定医療機関、エイズ九州ブロック拠点病院、単独型臨床研修拠点病院、病院機能評価認定病院、DPC導入病院、BFH認定病院、治験中核病院・拠点協議会参加施設、文部科学省研究補助指定病院、ISO9001認証（薬剤部）、臨床修練指定病院、臨床研修センター、地域周産期母子医療センター、ドクターヘリによる救急患者受入、二次被ばく医療機関、ISO15189認証（臨床検査部）

### 指定医療：

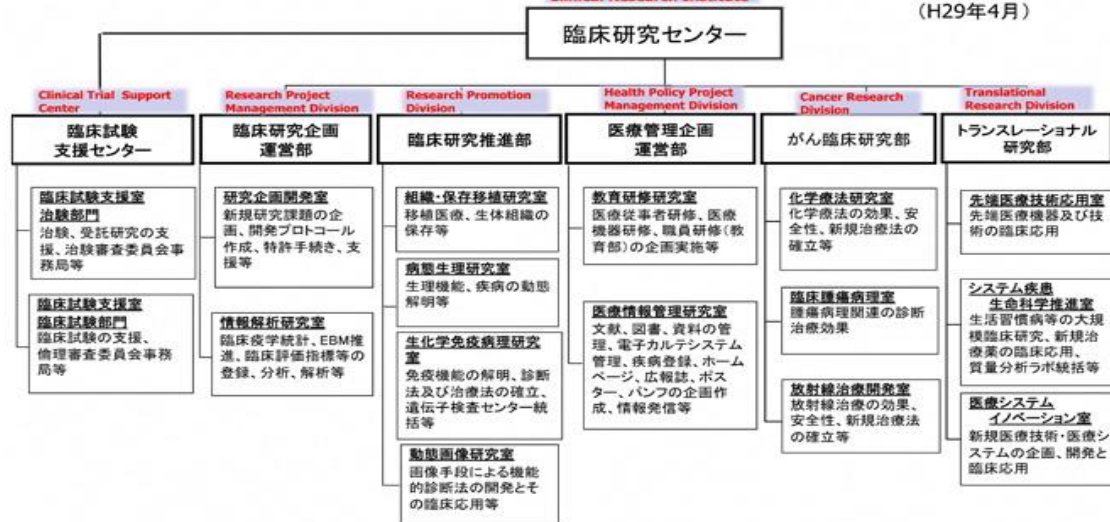
結核予防法、生活保護法、母子保健法（養育医療）、母体保護法、身体障害者福祉法、戦傷病者特別援護法、更生医療（眼科、整形外科、中枢神経、脳神経外科、心臓脈管外科、免疫）、児童福祉法（育成医療）、老人保健法、労働者災害補償保険法、原子爆弾被爆者に対する援護に対する法律（認定及び一般診療）、障害者自立支援法

## 研究部門

### 臨床研究センターの組織

Clinical Research Institute

(H29年4月)



- ・ 臨床研究センター5部15室
- ・ 臨床試験支援センターCRC15名 事務6名
- ・ 科学研究費補助金取扱規程研究機関（機関番号:87105）
- ・ 厚生労働省認定倫理審査委員会

## 研修部門

### ○臨床教育部

- ・ 医師臨床研修
  - 卒前教育
  - 初期臨床研修制度
  - 後期臨床研修制度
- ・ コメディカル実習・研修
- ・ 看護師等養成・研修
- ・ 内視鏡トレーニングセンター
- ・ スキルアップラボセンター
- ・ 文献等検索システム
- ・ 図書室

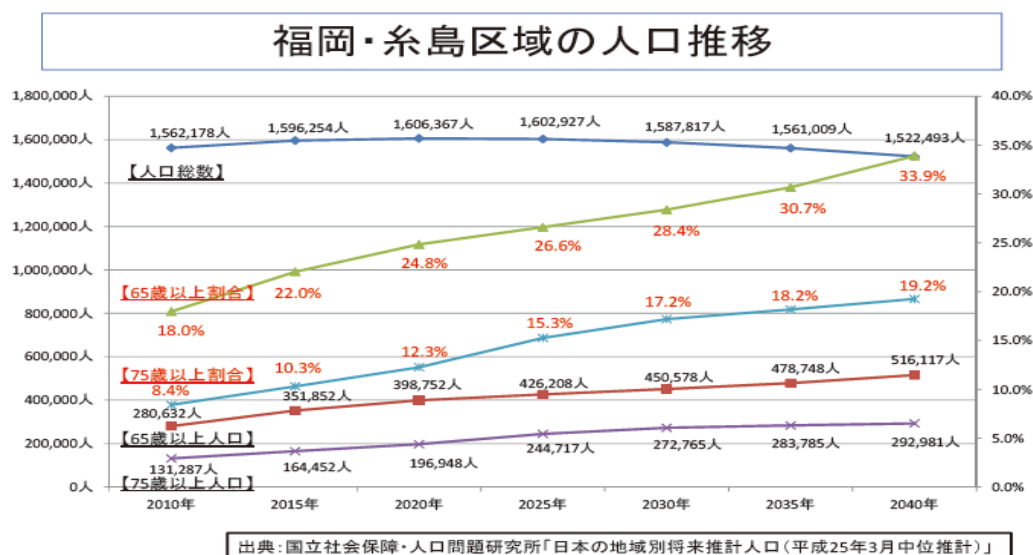
### ○地域医療研修センター

- ・ 医師、コメディカル、看護部
  - 生涯教育
  - 地域医療研修支援
  - 啓蒙活動(地域住民対象健康講座)

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状（「福岡県地域医療構想」からの抜粋）

- 総人口のピークは平成32（2020）年ごろ、一方で65 歳以上人口は増加を続けるため、今後、速いスピードで高齢化が進展する。



- 人口10 万人対の一般・療養病床の数、及び医師の数は全国平均を上回り、医療資源は豊富である。

#### 許可病床数の状況

（単位：床）

	許可病床数			人口 10 万人対許可病床数		
		一般病床	療養病床		一般病床	療養病床
全 国	1,334,724	995,170	339,554	1,050.3	783.1	267.2
福岡県	72,669	50,305	22,364	1,419.7	982.8	436.9
01 福岡・糸島	20,328	14,942	5,386	1,283.5	943.4	340.1

※平成 26 年 10 月 1 日現在（医療施設調査）

※人口の 10 万人対の数値は平成 26 年 9 月末時点の住民基本台帳月報を基に算出

#### 医師数の状況

（単位：人）

	医師 総数	人口 10 万人対医師数					
		総 数	小児科	産科・ 産婦人科	外 科	麻酔科	救 急
全 国	296,845	231.5	101.6	41.4	21.9	6.4	2.1
福岡県	14,912	291.2	113.2	43.5	29.6	8.0	2.7
01 福岡・糸島	5,670	357.4	127.4	47.8	36.9	11.6	4.6

※平成 26 年 12 月 31 日現在（厚生労働省：医師・歯科医師・薬剤師調査）医療施設従事医師数

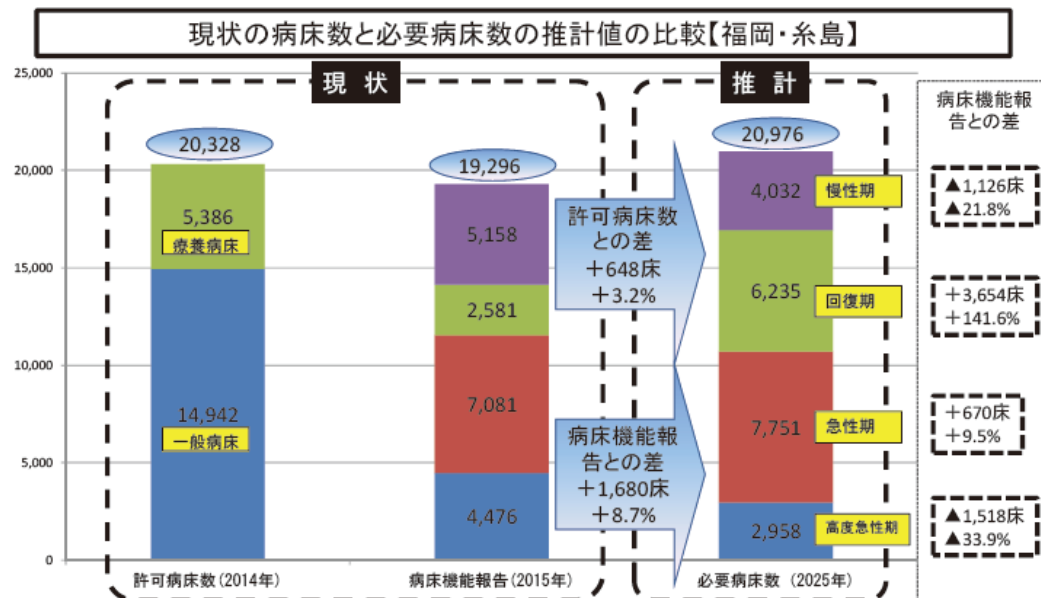
※人口 10 万人対の数値は平成 27 年 1 月 1 日現在住民基本台帳人口を基に算出

※小児科は 15 歳未満人口を、産科・産婦人科は 15～49 歳女性人口を基に算出

- 自己完結率は救急で93.2%、くも膜下出血で89.9%、急性心筋梗塞で91.7%、悪性腫瘍で94.2%、小児の入院体制で94.4%と非常に高く、医療提供体制は全般的に充実した状況である。

② 構想区域の課題（「福岡県地域医療構想」からの抜粋）

○ 必要病床数の推計値と現状の病床数との比較では回復期が3,654床不足する見込みである。



○ 高度医療機関が集積し、高度急性期、急性期について広域的に医療提供を支える役割を果たしつつ、高齢化の進展に伴い増加する慢性期・在宅医療等の医療需要に適切に対応することが必要である。

③ 自施設の現状

【高度医療の提供】

コアな診療機能を診療部門のセンター化によるチーム医療にて運営しており、ことに複合疾患の受け入れを完全紹介型で行っていることに特色がある。このことはDPC機能評価係数Ⅱの複雑性係数の高さにも反映されている。

中心的医療は、がん、脳卒中、循環器疾患であり、県内トップシェアとなっている疾病も多い。他にもリウマチ・膠原病、内分泌代謝内科、難病の急性期診療、HIV並びに合併精神患者の受入について地域の基幹施設として機能している。

救急医療では、2次救急・3次救急の救命救急センターとして、救命救急部・脳卒中グループ・循環器グループ・周産期グループを中心に診療しており、救急車搬送患者の入院比率は68.6%(29年4月～8月実績)である。

【診療実績】

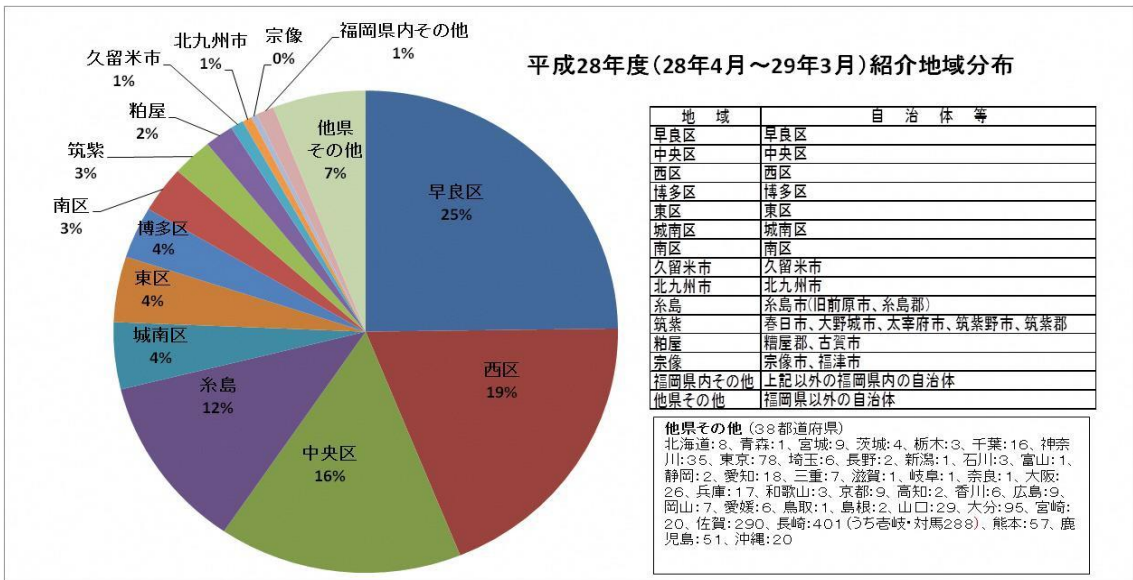
【入院】

新入院患者数 1,497人、平均在院日数（一般病床）11.1日 [H29年8月実績]  
1日当たり患者数 584.3人（病床利用率 83.2%） [H29年4月～8月累計]

【外来】

新外来患者数 1,455人、紹介率 99.5%、逆紹介率103.0% [H29年8月実績]  
1日当たり患者数 884.9人 [H29年4月～8月累計]

～当院は広域からの患者を受け入れている～



合計 / カウント	地 域															総計
	早良区	西区	中央区	糸島	城南区	東区	博多区	南区	筑紫	粕屋	久留米市	北九州市	宗像	福岡県内その他	他県その他	
紹介件数集計(件)	5,195	4,005	3,266	2,445	941	923	725	654	543	387	175	128	82	240	1,248	20,957
紹介件数割合(%)	24.8%	19.1%	15.6%	11.7%	4.5%	4.4%	3.5%	3.1%	2.6%	1.8%	0.8%	0.6%	0.4%	1.1%	6.0%	100%

※紹介元の病院の住所

[手術件数]

～当院が実施する手術は重症度が高い～

2016年実績 手術件数4,993件 うち全身麻酔件数3,908件(78.3%)

2017年見込 手術件数5,286件 うち全身麻酔件数4,169件(78.9%)

※2017見込件数は、2017年8月迄の実績をもとに推計



[届出入院基本料等]

DPC病院Ⅱ群

一般病棟7:1入院基本料(14個病棟)

精神病棟13:1入院基本料(1個病棟)

～当院は総合入院体制加算1を取得している～

総合的かつ専門的な急性期医療を行う医療機関であることを要件としている当施設基準については、現在(H29.7)全国で36医療機関(九州内4医療機関、うち福岡県は3医療機関)しか取得しておらず、福岡・糸島構想区域では当院のみが取得している。

～当院には看護必要度の高い患者が入院している～

重症度の高い患者が多く入院している病院や高度な医療を行っている病院を客観的に評価できる「重症度、医療・看護必要度」は次のとおりである。

一般病棟7:1入院基本料にかかる看護必要度 33.0%(基準25%)

総合入院体制加算1にかかる看護必要度 44.2%(基準30%) H29.8月分

【当院の特徴、担うべき医療等】

- ①5疾病・5事業を始めとして、循環器、成育、がん、免疫異常、内分泌代謝、血液・造血器、肝、腎、精神、感覚器の政策医療を専門分野とする高度総合診療機関として42診療科及び16センターを有し、内科・外科チーム医療を実践し、多領域にわたる疾病や病態に対して組織横断的集学的な診療機能を有している。
- ②高度医療指標である診療密度・医師研修医の実績、高度な医療技術の実施、重病患者に対する診療の実施における全ての指標においてDPCI群の基準値を大きく上回っており、福岡県内では、機能評価係数Ⅱ及び暫定計数についてDPCI群・Ⅱ群の9施設のうちともに最



高値となっている。

- ③救命救急センター指定、脳卒中治療ユニット併設包括的脳卒中センター、心臓血管外科2チーム配置の循環器センター、血液浄化センター・精神神経センター（合併症対応可能）
- ④高度周産期医療（北部九州の遺伝カウンセリング体制、高度腹腔鏡治療、BFH認定）
- ⑤21世紀の医療モデル（DPCⅡ群、医療情報管理センター、先進的医療支援MCセンター（総合医療支援）設置）
- ⑥地域医療支援病院（福岡市第1号、広域登録850医療機関、教育・研修年間4,000回開催実績）
- ⑦地域がん拠点病院（県内2位の実績、登録率、追跡率福岡県第一位、ダビンチ配備）
- ⑧広域災害九州ブロック拠点病院（福岡県基幹災害拠点病院）
- ⑨エイズ九州ブロック拠点病院（九州沖縄・西日本地区から受け入れ体制、合併症対応コンバインドクリニック併設、各地区への啓発研修活動年間11回実績）
- ⑩組織横断的な臨床研究を推進し、多領域の臨床分野（脳神経・循環器・消化器・がん・免疫疾患・難病等）の治験（約90課題実施中）・臨床試験（約400課題実施中）の全国中核施設
- ⑪単独型臨床研修指定病院、内科・外科・総合診療科専門医研修基幹拠点、外国人等研修に係る臨床修練指導施設、各種医療従事者の卒後研修および生涯研修（年間研修実績2,282件）

#### 【その他】

##### 〔病床機能〕

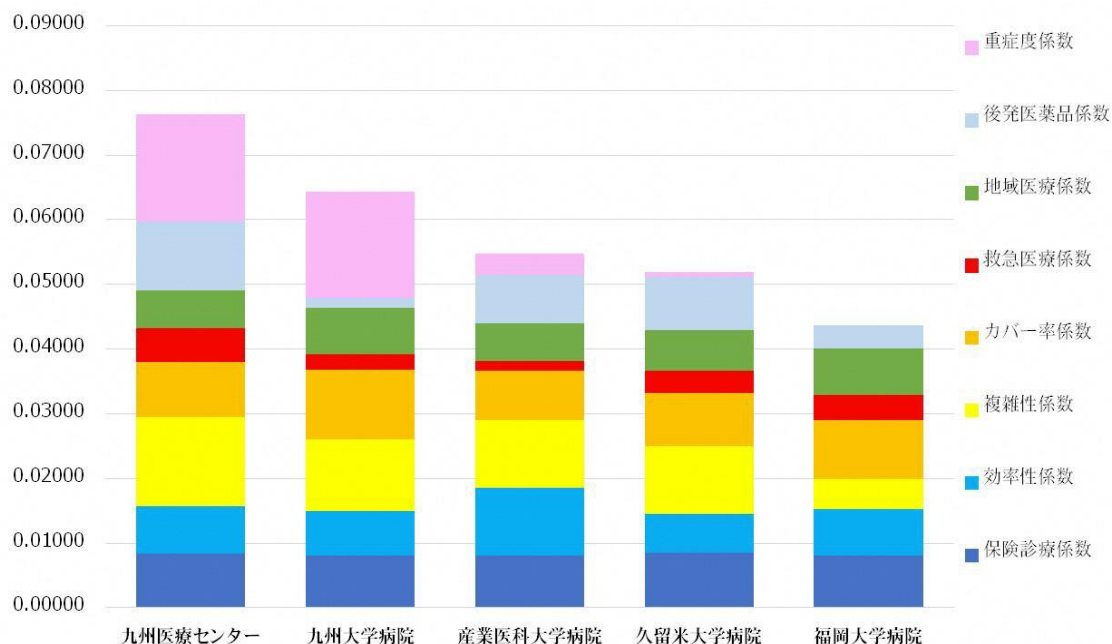
当院はDPCⅡ群病院に属しており、DPC機能評価係数Ⅱは0.0772と全国平均(0.0673)を超え県内のⅡ群病院では最高値である。特に複雑性係数が0.0148(全国平均+1.93SD)、重症度係数が0.01675(全国平均+1.64SD)と際だって高く、同じ主病名であっても他の病院より多くの合併症・併存症を有し、かつ重症な患者を多数診療していることが特徴である。

上記のような疾患が多いにもかかわらず、平成28年度の自宅退院率は87.99%と高く、高度急性期医療機関としての役割を果たしているが、合併症及び併存症を抱えた患者が多いために効率性係数は0.00825と全国平均(全国平均+0.27SD)に近い。

平成28年4月には救命救急センターの施設認定も受けており、今後更に重症度の高い疾患を受け入れる体制を整えていきたい。また、二次医療圏において効率的な医療提供体制を整備するため、周辺地域で急性期病床から回復期及び慢性期病床の確保が必要である。

DPC機能評価係数Ⅱ（公的な病院の指標）

(2016.4)

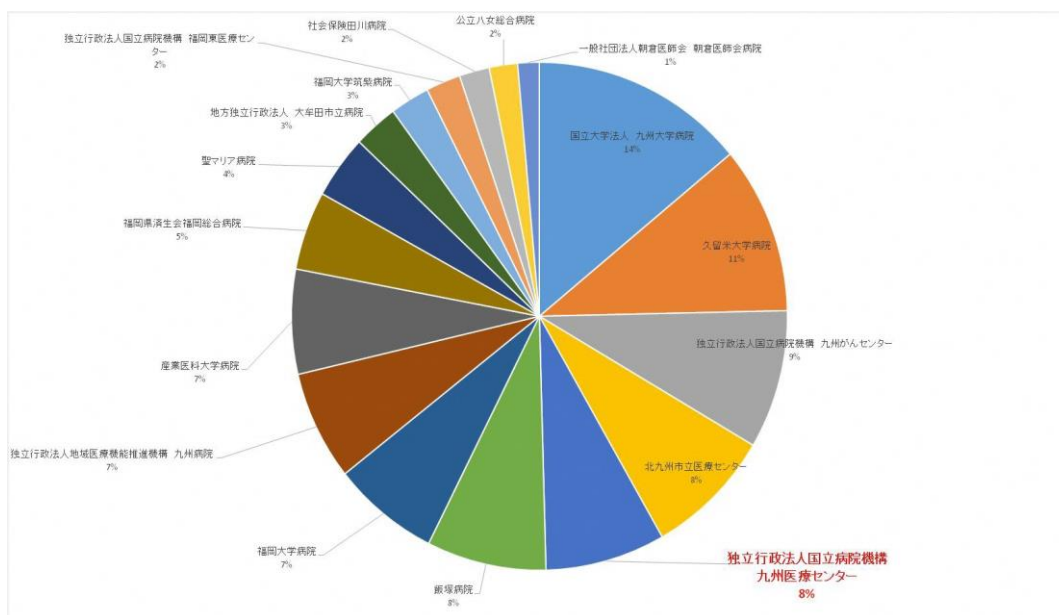
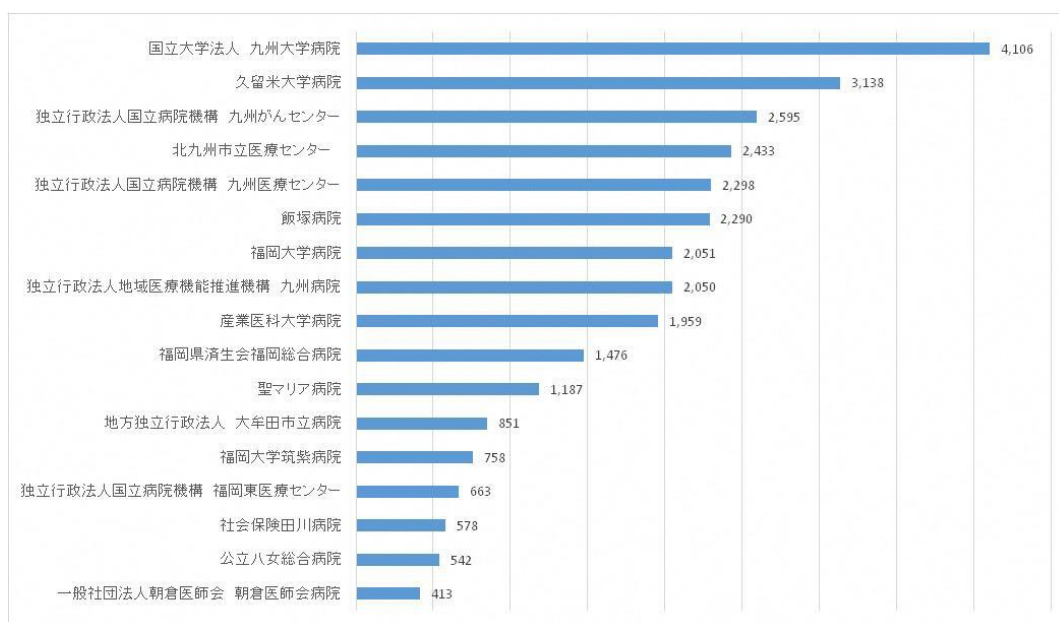


### [地域がん診療連携拠点病院]

がん登録件数は2016年2,413件で、この4年間一貫して増加している。(2012年から16%の増) 部位別ではC34気管支及び肺(317件)、C16胃(257件)、C18結腸(224件)、C50乳房(189件)、C61前立腺(170件)が多く、併存疾患を抱えている症例が多いのが特徴である。治療別に見ると、上記新規登録患者に対し、内視鏡的治療を含む外科的治療が1,061件、化学療法が350件、放射線治療が151件実施されており、集学的治療例が多い。年齢別では65歳以上の患者が67%を占めており、福岡・糸島医療圏においても2025年には65歳以上の人口割合が26.6%に増加することが推計されていることから、今後がん患者数はさらに増加すると予想される。

また、当院には、遺伝子研究部署として遺伝子研究センターを設置しており、更にはがん登録センターでは、当院独自の予後調査を実施している。

### 【2015年診断症例】施設別がん登録件数



[脳卒中診療・研究・研修拠点病院]

脳卒中臨床試験基盤整備事業『Network for Clinical Stroke Trials（日本医療研究開発機構（AMED）事業）』九州地区拠点施設、福岡脳卒中データベース事業施設であり、日本脳卒中協会福岡県支部が施設内に併設され、県メディカルコントロール協議会で脳卒中医療提供体制に関し情報提供するとともに、県総務部防災危機管理局消防防災指導課とともに救急救命士に対する脳卒中病院前救護研修を継続的に実施している（現在までのべ約800名に実施）。

[医療スタッフの派遣による診療援助]

- ・当院では、長崎県病院企業団が実施する「アイランドナースネットワーク事業」に係る協定を締結、対馬地域の病院へ看護師を派遣することにより、離島地域の深刻な課題である看護師確保を支援している。
- ・国立病院機構では、臨床研修医創設等に伴い多くの病院が医師不足になったため、病院間の医師派遣のシステムを構築した。当院からは宮崎県児湯郡にある宮崎病院にローテートで医師を派遣し、地域医療の継続を支援した。

[国公立大学管理栄養士養成施設（福岡女子大学）との連携協定締結による]

医療職の人材育成、および地域医療の充実や健康づくりに寄与することを目的として、平成23年12月に福岡女子大学と連携協定を締結した。これは福岡女子大学からの申し出によりなされたものであるが、連携協定により、システマティックな教育、研修が可能となり、臨床に特化した専門性の高い管理栄養士を目指すものである。当院は研修施設としてその育成に携わり、「地域貢献」、「人材育成」「臨床研究」という当院の使命を果たしている。

[連携大学院との連携]

今年度閉校する当院附属看護学校跡地に、メディカルスタッフ（看護学、臨床医工学、臨床検査学、放射線技術学）を対象とした連携大学院が平成30年4月に開講予定となっており、当院臨床研究センターと密接に連携し人材育成を行うこととしている。

#### ④ 自施設の課題

- 地域医療構想の大切な目標である、「高齢者が住み慣れた街でその人らしく暮らしていく」ための、生活期の施設や在宅との連携を、高度急性期施設として地域の役割を果たしつつ、より広域な医療圏へサービスを拡大していくために、ＩＴを活用した遠隔医療、地域連携室と遠隔地ケア施設との急性期医療連携を発展させていくことが必要である。
- 当院では複雑で難度の高い医療を行っているが、重症の合併症を有した急性期の患者や難病患者、ＨＩＶ患者等が急性期を脱したあとに転院先として対応力のある医療機関が少ないため、当院が行う研修や勉強会を通して病病連携の充実を図る必要がある。
- 今後当院が地域から求められている高度急性期医療を担っていくための課題として、手術が手術室の収容能力を超え増えており手術待ちが長期間となっていること、放射線治療件数の増加により既存の治療装置だけでは対応困難なため他に紹介せざるを得ない状況にあることである。紹介患者の受け入れが年々深刻な状況となっており地域医療ニーズに応えるためにも早急な整備が必要である。
- 高度急性期の機能を維持した先駆的総合医療の宿命であるが、専門性を確保するため多くの人的・物的資源が必要となり、結果として経営を圧迫している。医療圏内の専門医療の棲み分けにより経営資源を集中させる必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

○当院は福岡市の中央に位置し、福岡・糸島医療圏はもとより粕屋、宗像、筑紫、飯塚医療圏等県内全域及び唐津市、壱岐・対馬をはじめ県外広域から紹介を受け高度医療を実践する。  
(紹介率 99.5% H29年8月実績)

○脳卒中および心血管疾患について包括的な診療体制を有しており、全身血管高度治療センターとして高度急性期医療を提供する。

○救命救急センターおよび県指定災害拠点病院として、福岡・糸島医療圏をはじめとする災害、事故発生時の高エネルギー外傷患者に対応する。

○総合診療がん診療拠点病院として、幅広い分野のあらゆるがんに対して、手術、化学療法、放射線治療などの集学的な治療を行う高度急性期機能を発展させる。

○MDC13（血液・造血器・免疫臓器の疾患）に対する医療については、福岡・糸島医療圏のみならず県内から広く患者を受け入れている。一部を外来に移行しつつ高度急性期機能を維持する。

○エイズ医療の提供体制における全国に14カ所しかない地方ブロック拠点病院としての役割を担っており、HIV患者に対する包括的な医療を提供するため不可欠な高度急性期機能を維持する。

○福岡・糸島医療圏における地域周産期母子医療センターとして積極的に高リスク妊産婦を受け入れている。産科・小児科連携による高度急性期機能を維持する。

○今後とも、臨床研究の推進と地域への情報発信及び研修部門では人材の育成や生涯教育について、より充実していく必要がある。

② 今後持つべき病床機能

○高度急性期機能は維持するが、地域の人口や病床利用率などを踏まえ、最適な病床規模について検討する。

○今後、地域の状況をみながら、院内に全身血管高度治療センター、不整脈治療科、脳卒中診療科、がん総合医療センター、離島遠隔医療センター、災害医療センター等を検討していく。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	652	→	652
急性期			
回復期			
慢性期			
(合計)	652		652

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	自施設の役割について地域医療構想調整会議において関係者と協議	自施設の今後の病床の在り方を検討	
2018年度	協議の結果を踏まえ具体的な病床計画を策定	自施設の病床の在り方について関係者と合意を得る	
2019～2020年度			
2021～2023年度			

## ② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合	脳血管神経内科の更なる充実・強化のため脳神経内科と脳卒中診療科への細分化を考えている。	→	

## ③ その他の数値目標について

### 医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 85%
- ・ 手術件数： 6,000件(全麻件数5,000件)
- ・ 紹介率： 95%
- ・ 逆紹介率： 90%

### 経営に関する項目

- ・ 人件費率： 現時点では基金の活用を想定していない。
  - ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：
- その他：

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

## 【4. その他】

(自由記載)

当院では、先々の医療変革を先取りして、地域と一体となった医療サービス提供の起点となる真の高度総合医療施設として機能するため、各部門の機能強化、先進医療への取り組み、ならびに情報や物流の集約化・透明化への体制整備を図っています。具体的には医療サービスの一元化を目指す総合医療支援センター(MCC)をはじめ、遺伝子センター、超音波・生理検査センターが本格的に稼働をはじめ、更には救命救急センター、手術部の改修、放射線治療センターの拡充が控えており、人材育成、臨床研修体制を含めて今般の医療改革に対応する体制が整いつつあります。

災害医療、HIV基幹施設や血液難病、合併精神病、先進医療などに加え、人材育成、臨床研究、情報発信などのいわば不採算部門の役割も十分に果たしつつ高度総合医療施設の体制を維持することは容易ではありませんが、これを当院の使命として、より高い機能充実に向けて日々変革を続けています。